

令和 6 年度 第 5 回江北町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和 6 年 10 月 24 日（木）14：00～14：30
- 2 場 所 公民館 2 階講座室
- 3 出席者 下表のとおり

【構成員】

番号	役 職	氏 名
1	町長	山田 恭輔
2	教育長	吉田 功
3	教育長職務代理者	浪瀬 隆一
4	教育委員	重松 亜須香
5	教育委員	溝口 泰弘
6	教育委員	田中 薫

【こども教育課・学校づくり推進室】

番号	役 職	氏 名
1	課長（兼室長）	本村 健一郎
2	課長代理	峯 清美
3	係長	野田 あゆみ
4	主任指導主事	小宮 広明
5	専門員	牟田 久俊

【事務局：総務政策課】

番号	役 職	氏 名
1	副町長	山下 宗人
2	課長	山中 博代
3	課長代理	小野 政己
4	係長	淵上 和剛

4 議題

教育諸課題解決に向けた検討の進捗状況について

○開会（山中課長）

○挨拶（山田町長）

先日、学力向上について説明を受けて、意見を申し上げた。本日は、教育委員さんとその内容を共有し、意見を聞ければと思っている。

○議題

－牟田専門員より教育課題「こどもたちの学力向上」について説明－

【浪瀬委員】

- ・学習をするように促すのは難しいと感じている。
- ・学校の取組について、学校側にお願いし、学校側の意見を取り上げ、子どもたちに意識、理解させることが大事
- ・家庭の場合は、保護者に現状を理解してもらい、家庭における学習について協力をしてもらおう。親が意識をもって指導補助しないとうまくいかない。
- ・行政でできることは、予算化して先生方の意欲を向上させることが大事
- ・学校、家庭、行政の3つがうまく協力していかないと効果がでないと思う。

【田中委員】

- ・家庭学習は、雰囲気づくりが大切。勉強に身が入らない、宿題をしてこない子たちは、お家で見てもらえないなど環境が整っていない子が多いので、その子たちをどういう風にしたら引き上げられるのか、勉強するように意欲を沸かせてあげられるのかが課題。
- ・家でできないとなると学校でサポートするとか、クラスみんなで一緒にがんばろうとする雰囲気づくりが大事。まずは学校の中で、机についてやれるような雰囲気をつくり、時間というより質を重視してやれないかと思う。

【溝口委員】

- ・小中学校、全員が全員、点数が悪いわけではないと思う。頭がいい子、ある程度理解できる子、ついていくのが難しい子の3つの層に分かれると思うが、中間層や点数とれてない子を重点的に個別指導や補修授業をやって底上げをしないと、全体はあがらないと思う。テスト結果次第で、補修授業などをした方がいい生徒を振り分けて、先生たちにわからないところを理解するまで教えてもらうことができればいいのかなと思う。

【重松委員】

- ・家庭環境や保護者に訴えることが一番難しいと感じている。学習時間の確保については、これまで各家庭に責任をもってもらった。これからは、家庭の状況や保護者に左右されない学習環境を作ってやることが一番大事。
- ・先生方の負担を考えると、放課後を使って“放課後学習会”を町がするような感じで、現場の意見を取り入れながら、町と学校が一緒になって、学校にいる間に手助けできるような取組ができればいいのかなと思う。
- ・英語の学力向上については、小学校から授業で聞いたり、話したりされているが、学力には結びついていない。現場の先生方に本気になってもらい、何が足りないのか、どうしたほうがいいのか改めて提案してもらおう。現場の意見を聞かないことにはこちらから何も言えない。どうしたら力がつくのか先生方にも考えてもらって、具体的にどういう形で子供達に反映していくかを取り組んでいくことが大事だと思う。

【町長】

- ・先に説明を聞かせてもらって、いくつか意見を申し上げている。
- ・学校外の学習時間（塾を含む家庭学習時間）については、通常の学校の授業外という意味で捉えた方がいいですよと申し上げた。そうしないと、学校はやらないといけないことはやっているから、後は家庭の問題です、みたいに責任放棄的な感じになり、せっかく議論していることも意味がなくなる。塾、補講、放課後児童クラブとかも含めて学校以外の学習時間が足りない、それを家庭まかせにせず、学校と家庭の間のところをどうしていくかという捉え方をしないといけないと思う。
- ・学力は平均で表されているが、上位層、中間層、下位層とあるとすれば、もう少し詳細な分析をすることで、下位層が足を引っ張っている、上位層が少ないなどの町の特徴がわかってくる。集計だけではなく、もう少し分析レベルを上げることで取り組まなければいけないターゲットがはっきり見えてくるのではと申し上げた。
- ・武雄市は“通塾率”のアンケートを取っているが江北町は数字がない。必要に応じて追加でアンケート調査をして、他と比べてはどうかと申し上げた。
- ・最終的には来年度の予算化をしないといけない。全体的にやる方法もあるが、まずは何年生の特定の教科のみを改善するための事業化をできないか。全部同時にやると、結果、何をやっているかわからなくなるため、まずは具体的な教科を決めてやる。学校と家庭の間で、ターゲットを絞って事業化するところからはじめた方がいいのでは思い、そう申し上げた。まずは、スモールサクセスで具体的な成功事例、ターゲットを決めてやった方が成果もわかりやすいと考えている。

- ・楽しむ、みんなで漢検を受けるとか、ムード、雰囲気づくりをやって、何かを共通してやる、家庭事業と言って家庭まかせにしない。
- ・先生方に問題があるわけではない。江北町の子たちが他の市町の子に比べて能力が低いわけでもないはず。だとすると、環境というか、一つ言われたのが江北町はどこの高校にも通学できることから、競争率 1.08 という数字でいけば、いける学校でよければ大体いくことができる。武雄市の場合、公立は武雄高校しかないため、一生懸命勉強して武雄高校に入らないといけないというムードがあって、親御さんにもそうした気持ちがあるのかもしれないと言った。それは、家庭とか先生とかではなく、本来良いはずの地域の特性が逆に働いているかもしれない。だとすれば、あがれそうなところにしか行かない子のレベルを上げるため、行政が乗り出して、学ぶ環境を作ってあげることが大事だと思った。

【溝口委員】

- ・進学の件で全員志望校に合格したと聞いた。能力はあると思うので普段から勉強に身を入れてやればできると思う。

【町長】

- ・学力テストで志望校（学科）をならしていく作業を佐賀県全体でやっている。いけるところは物理的にいける。いける学校をなるべく高くして、いきたい学校を選べるようにしてやらないといけない。

【田中委員】

- ・いけるところ、目指したい学校を見つけてほしい。入られるところにしか行かない考えだとそうになってしまう。何がしたいかを見つけることが大事。

【町長】

- ・英語は、話すことにシフトしすぎて文法ができていない。学校でそうであるなら、文法みたいなことを教えてあげる場が必要かなと。また、放課後児童クラブも関わってくる。今は宿題や遊んでいるだけだが、学校が終わった後の時間や環境を子どもたちにどういう風に提供するのか、部活の地域移行を含め、放課後体験教室、学力向上などとも関係なくないと思っている。
- ・今回は、次の教育課題をテーマとする。

○閉会